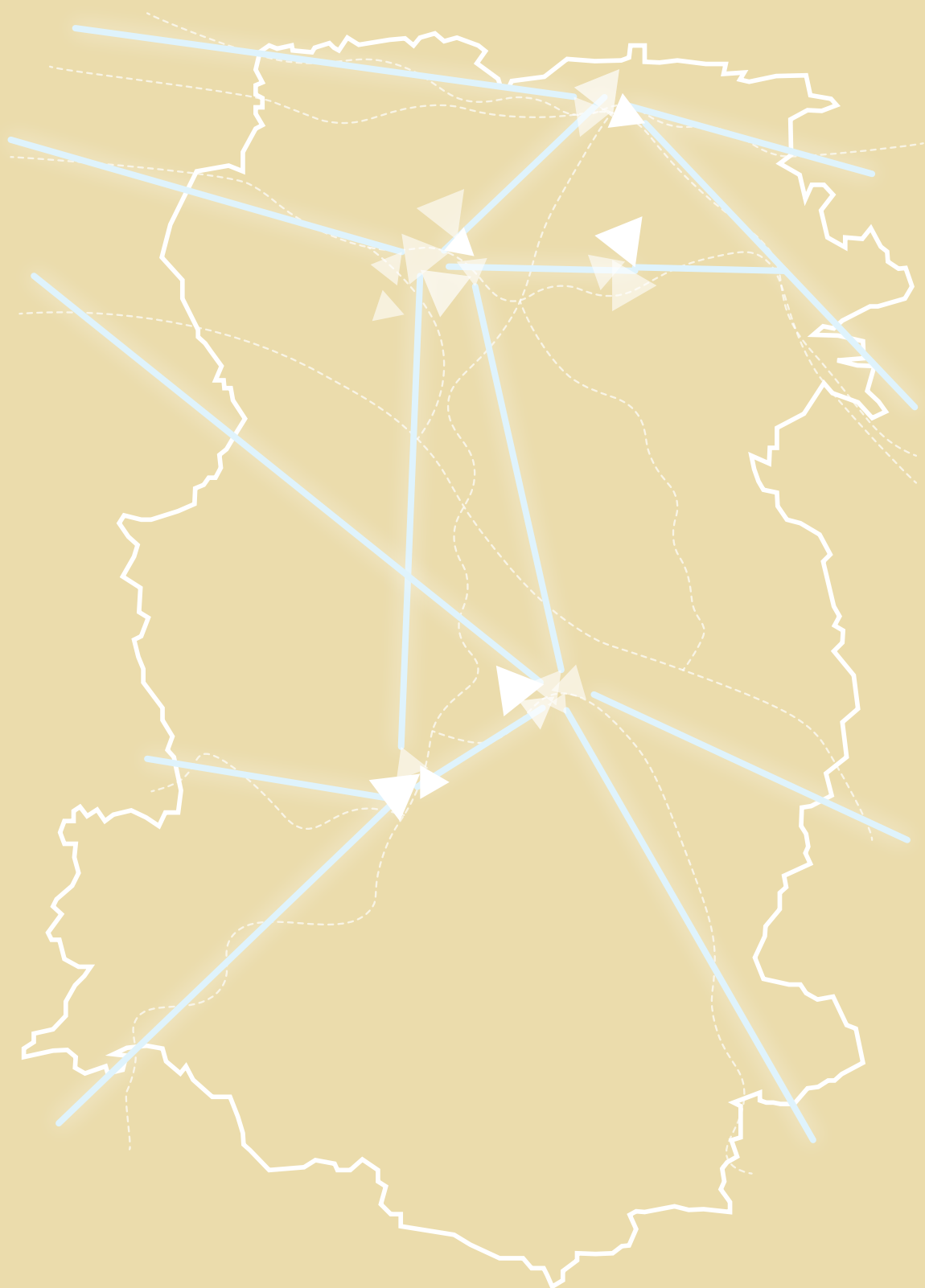


第3章

将来都市構造



第3章 将来都市構造

1. まちづくりの理念と基本方針

(1) まちづくりの理念

本市は、山々や河川、海等の豊かな自然環境や田園風景、歴史・文化遺産といった地域資源や広域連携における都市の地理的優位性等の特色があります。こうした市の特性を守り、育て、活かすまちづくりに取り組み、地域内外の交流を促進することが必要です。

また、人口減少・少子高齢化社会が進展するなか、各地域コミュニティの維持・形成を図りながら、都市機能の充実やまちの活力を高め、安全・安心な居住環境の中でいつまでも暮らし続けられる持続可能なまちを形成することが求められます。

そこで、2010（平成 22）年に策定した「宇佐市都市計画マスタープラン」の進捗や「第二次宇佐市総合計画」等の上位・関連計画、現況・課題を踏まえつつ、以下の「まちづくりの視点」に基づき、本市の特徴を活かした魅力あるまちづくりを進めるため「まちづくりの理念」を設定します。

■まちづくりの視点

1. 広域連携による地理的優位性を活かしたまちづくりの推進

- ◆広域交通網の整備により構築された北部九州と周防灘を循環する各ネットワークの結節点に位置する本市は、この地理的優位性を活かし、広域的な都市圏・生活圈の中で周辺都市と機能分担を図り、都市圏全体の活性化の一翼を担う都市として、経済、文化、観光等の振興を推進します。

2. 周辺部を含む地域の均衡ある発展と持続可能なまちづくり

- ◆都市機能が充実した中心拠点のほか、駅周辺の交通結節拠点や生活拠点、産業拠点、観光・交流拠点等、特色のある拠点を市内にバランスよく配置し、地域の均衡ある発展を目指します。
- ◆人口減少や超高齢社会に対応するため、都市のコンパクト化とネットワーク構築による都市経営の効率化を進め、誰もがいつまでも住み続けられる持続可能なまちづくりを推進します。

3. 安全で安心な生活環境の確保

- ◆近年、頻発化・激甚化する水災害や地震、土砂崩れ等の大規模災害による被害を軽減するために、防災体制の充実や防災活動の推進、災害防止対策の推進等に努めるとともに、市民の身近な安全確保のための防犯対策を推進します。

4. 農林水産物、歴史文化、自然環境など地域資源の活用と交流

- ◆米、ぶどう、ゆず等の豊富な農林水産物、宇佐神宮、宇佐海軍航空隊跡や石橋、鰻絵等の歴史文化資源、潤いある緑・水辺空間等、多様な既存ストックのポテンシャルを活用しながら、市民が誇りや魅力を感じるとともに、来訪者がまた訪れたいと思う、楽しく交流できるまちづくりを推進します。

■まちづくりの理念

定住満足度日本一、交流満足度日本一のまち

(2) まちづくりの基本方針

まちづくりの理念である「定住満足度日本一、交流満足度日本一のまち」を達成するため、以下の5つのまちづくりの基本方針を設定します。

1 拠点の形成と交通体系の整備による、地域が連携するまちづくり

- ◆商業、医療・福祉・子育て施設等、必要な都市機能を市の中心部や生活の拠点に維持・集約し、市街地の無秩序な拡大を抑制するとともに、より高次の都市機能については周辺市町と補完し合うことで、メリハリのある土地利用の誘導を図ります。
- ◆既成市街地においては、道路や公園等の公共施設、空き家・空き地等の既存ストックを活用し、より効果的・効率的なまちづくりを進めます。
- ◆幹線道路等の広域交通体系や市街地内の生活道路の整備を行うことで、都市間や地域間、拠点間の連携強化・交流促進につなげます。
- ◆超高齢社会を迎える中、自家用車に過度に依存しなくても生活できる環境の実現に向けて、公共交通体系の見直しを図るとともに、歩道や自転車道等の整備により、誰もが自由で快適に移動できる空間形成を推進します。

2 企業誘致、地場産業の振興と交流の促進による、活力あるまちづくり

- ◆地理的優位性を活かした産業用地の確保による新たな企業の誘致や地域の強みを活かした地場産業の振興を推進し、雇用の場の創出を図ることで、本市に住み、働くことができる環境を整え、定住人口の確保に努めます。
- ◆本市が誇る多彩な歴史文化や農山漁村の地域資源を活かしたツーリズムを推進するとともに、訪れる人の心に残る宇佐らしい空間の形成を図り、交流人口の増加を目指します。

3 快適で健やかな暮らしを支える、安全・安心なまちづくり

- ◆地震、津波、洪水、土砂災害等の災害危険性の高い地域への居住を抑制し、防災対策を積極的に講じるとともに、地域の防犯性向上に向けた各種施策を講じることで、安全で安心なまちづくりを推進します。
- ◆道路や住宅、公園、上下水道等の生活を支える都市基盤の整備、マネジメントを図るとともに、医療・福祉・子育て支援・教育環境の充実、情報通信技術の活用等、あらゆる人にやさしく、快適で健やかに暮らし続けることができるまちづくりを進めます。

4 豊かな自然環境・歴史文化を守り、未来へつなぐまちづくり

- ◆長い海岸線や穏やかな海、広大な平野や緑深い森林、河川等、豊かな自然環境の保全・再生に努め、人々に安らぎや潤いを与え、環境負荷の少ない空間の形成を図ります。
- ◆彩り豊かな自然環境や全国八幡社の総本宮である宇佐神宮、数々の戦争遺構等の歴史・文化資源、趣きのあるまちなみ等を保全・活用し、「宇佐市らしさ」を活かした魅力の創出を図るとともに、次世代に継承するまちづくりを進めます。

5 地域コミュニティの形成による、市民協働のまちづくり

- ◆ソフト面における防災や防犯対策、福祉施策や地域活動の維持・活性化に向け、自治会や地域活動団体をはじめとする地域コミュニティ組織の形成を図るとともに、地域コミュニティ組織が自主的・積極的にまちづくり活動に取り組むことができるように支援します。
- ◆市民一人一人が主役となり、市民・事業者・NPO・ボランティア・行政等の多様な主体が連携しながら、それぞれが担う役割が発揮されるようなまちづくりの形を目指します。

2. 将来人口

本市の人口は、1945（昭和 20）年に約 10 万人のピークに達した以降減少を続けており、2020（令和 2）年現在で 52,771 人となっています。さらに、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）によると、2045（令和 27）年の人口は 37,670 人にまで減少すると推計されています。

「宇佐市人口ビジョン」では、出生率向上や転出抑制・転入促進による人口減少の緩和により、2045（令和 27）年の将来人口を 46,000 人と設定しています。

都市計画マスタープランでは、市の目標人口として掲げる 46,000 人の実現を目指し、まちづくりを進めていきます。

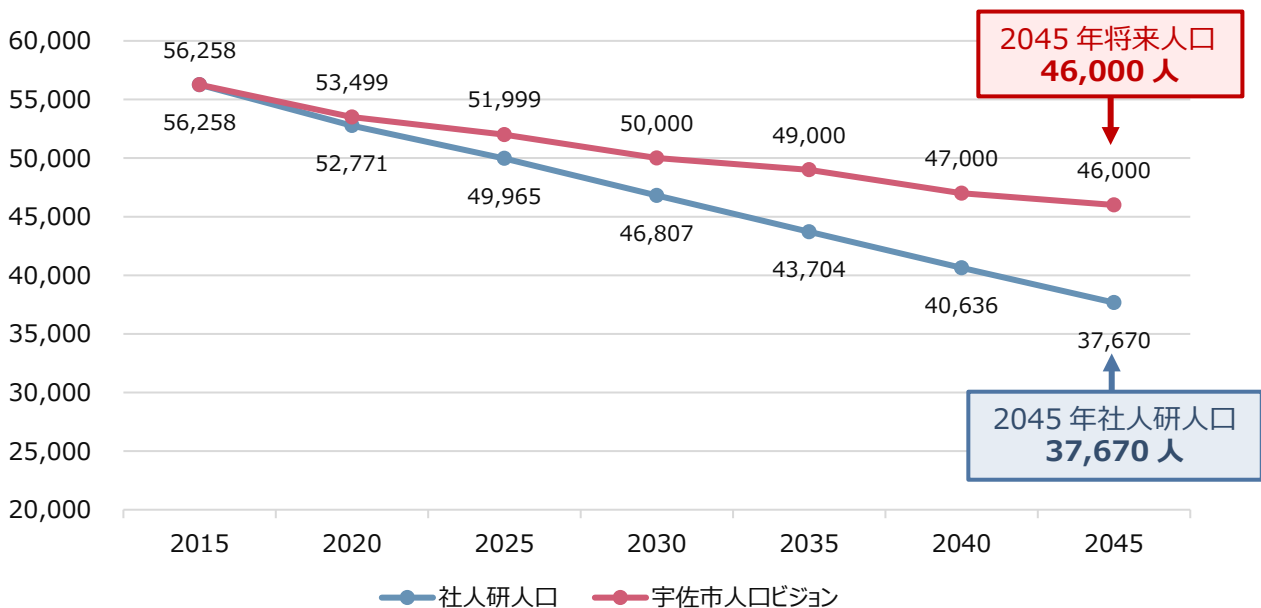


図 「宇佐市人口ビジョン」による将来人口と社人研人口

3. 将来都市構造

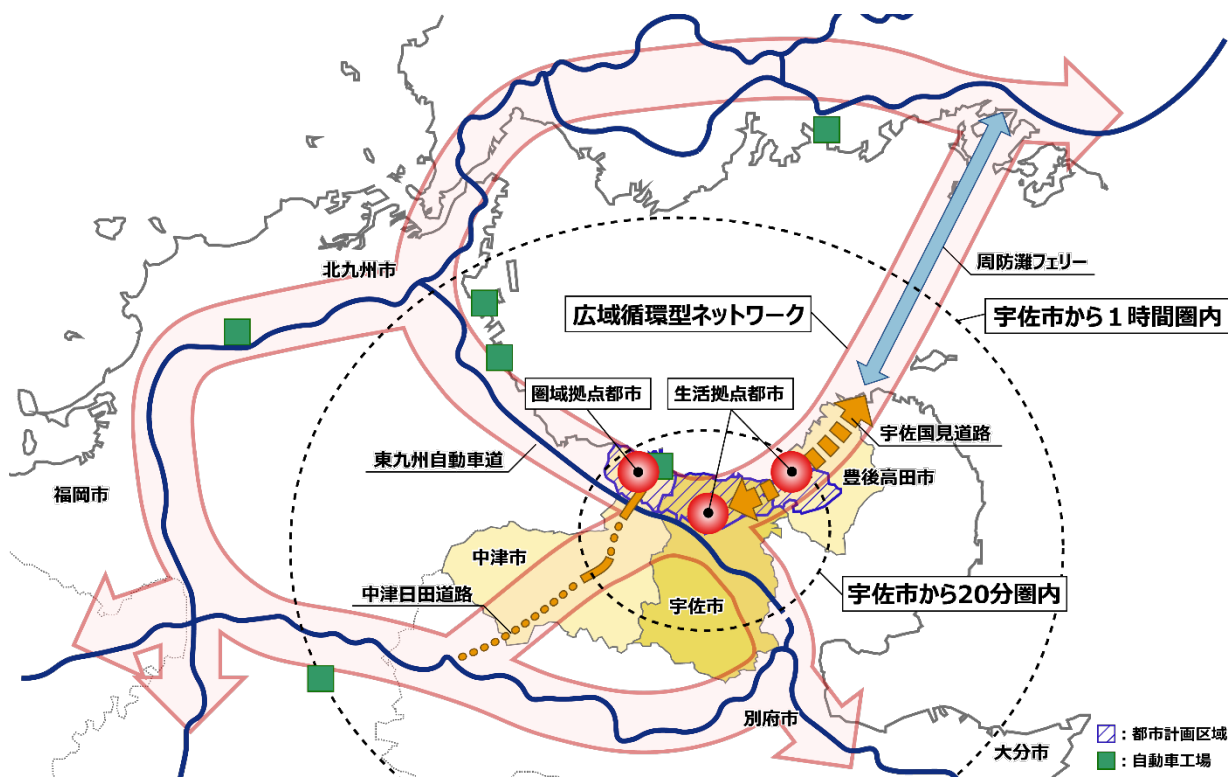
(1) 広域的な位置づけ

「大分県の都市計画の方針」において、宇佐市、中津市、豊後高田市は県北広域都市圏として位置づけられており、各市の都市計画区域は一体的なものとして、連動した都市計画が進められています。

県北広域都市圏において、本市および豊後高田市は「生活拠点都市」に、中津市は「圏域拠点都市」に位置づけられています。

県北広域都市圏は、東九州自動車道の4車線化や宇佐国見道路、中津日田道路等の整備により、北部九州をはじめ、周防灘フェリーを介して山陽自動車道と連携した「広域循環ネットワーク」が形成され、経済・文化・観光といった多彩な交流の促進が期待されます。

本市としては、田園環境や歴史・文化資源を活かした、ゆとりと潤いのあるライフスタイルや豊富な観光資源を活用した都市の形成を図ることとします。



※圏域の所要時間は宇佐市役所から陸上移動の場合
(中津日田地域高規格道路の開通による見込み時間)
※破線は未整備区間

図 広域的な位置づけ概念図

(2) 将来都市構造

本市の将来都市構造は、まちづくりの理念および基本方針を踏まえ、地域の均衡ある発展と効率的な都市構造の実現を目指し、将来の都市の骨格を表現するものです。将来都市構造には、点と線と面の3つの要素があり、人々の生活や産業の活動の舞台となる「拠点（点）」、点と点を結び都市連携や拠点連携の骨格となる「軸（線）」、点と線を面的に構成し土地利用の枠組みとなる「ゾーン（面）」から構成されます。

拠点 (点)	市および地域において、都市活動に影響を及ぼす核となる場所であり、拠点の役割に応じた都市機能の集積や拠点としての維持・充実を図る市民生活において重要となる場所や産業活動において重要となる場所に配置される点
軸 (線)	鉄道、道路、河川等の連続性のある線的空間を軸状に位置づけ、市街地を連担する都市軸としての役割や拠点間における公共交通の連携を図る交通連携軸としての役割、水辺や緑地等のネットワーク軸としての役割を担う線
ゾーン (面)	拠点の配置や軸の連携状況等を考慮し、効率的な市街地形成を図る区域や自然・営農環境等を守る区域等、大きなまとまりのある面的空間として捉え、一体の土地利用を誘導する面

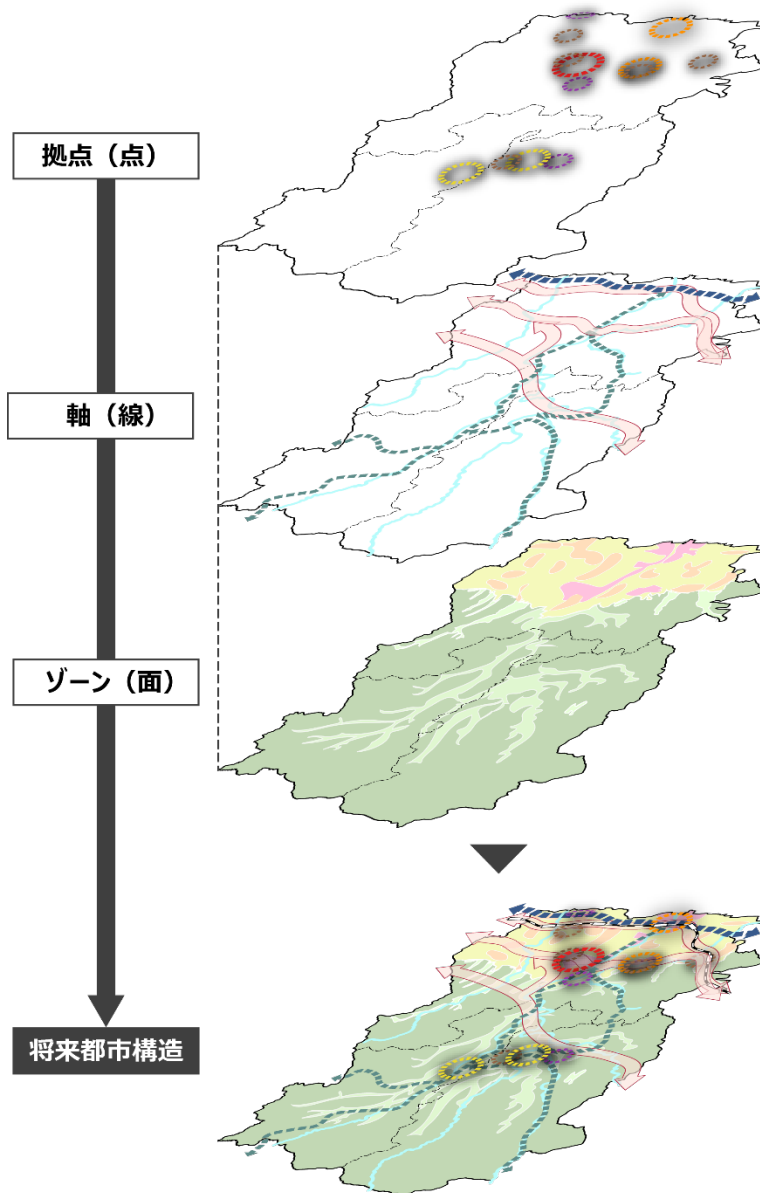


図 3つの構成要素と将来都市構造

		区分	整備の方針
拠点	都心		◆多くのバス路線が集積する四日市周辺の交通結節機能を活かし、国道 10 号沿道に立地する商業施設、官庁・業務施設等の多様な都市機能の維持・集積を図り、河川浸水等の防災対策を行うことで、本市の都心形成を図ります。
	北部交流拠点		◆JR柳ヶ浦駅の交通結節機能を活かし、防災対策に配慮した計画的かつ着実な都市基盤整備を図りつつ、商業の集積を誘導することで、本市の玄関駅にふさわしい拠点形成を図ります。
	宇佐交流拠点		◆宇佐八幡バス停等の交通結節機能を活かし、医療・福祉・教育・金融施設等、生活に必要な身近な都市機能の集積を図るとともに、宇佐神宮等の歴史・文化資源を活かした観光交流を図ります。
	地域生活拠点		◆市役所支所や商業・生活サービス施設等、生活に必要な身近な都市機能の集積を活かすとともに、機能の分散を抑制しつつ拠点性の維持・強化を図ります。
	産業拠点		◆生活環境や自然環境との調和を考慮し環境保全に努めるとともに、産業機能の集積について検討します。
	景観・観光拠点		◆本市を代表する歴史的観光地である宇佐神宮・宇佐勅使街道や四日市門前地区、善光寺、鏝絵群等、市独自の歴史的・伝統的な特性を活かし、JR宇佐駅周辺等を含めた、観光交流の場の形成を図るとともに、地域特有の暮らしが醸す落ち着いた景観形成を図ります。
軸	都市軸	広域連携軸	◆JR日豊本線 ◆東九州自動車道（北九州市～鹿児島市） ◆宇佐別府道路（宇佐市～日出町） ◆国道 10 号（北九州市～鹿児島市）
		県北連携軸	◆県道中津高田線（中津市～豊後高田市） ◆（都）黒川松崎線
		地域連携軸	◆国道 387 号（宇佐市～熊本市） ◆（都）柳ヶ浦上栞田線 ◆国道 500 号（別府市～鳥栖市） ◆県道佐田駅川線（宇佐～安心院）
			◆JR日豊本線や東九州自動車道、宇佐別府道路、国道 10 号は、県北地域の道路交通体系の中心的役割を担う広域連携軸として、高速交通ネットワークの構築を推進します。
			◆県北連携軸は、周辺都市との広域的連携を担う路線として、自動車交通の安定した流動を確保しつつ、公共交通の速達性の確保等、広域的な都市軸の形成を図ります。
			◆地域連携軸は市内の各拠点間をつなぐ路線として、日常生活の利便性向上と、非常時の防災機能の向上を図ります。 ◆各地域に分散した市街地の連携を図るため、効率的かつ効果的な公共交通ネットワークの構築を図ります。

		区分	整備の方針
軸	河川景観軸	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 駅館川 ◆ 津房川 ◆ 恵良川 ◆ 伊呂波川 ◆ 寄藻川 ◆ 佐田川 ◆ 深見川 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本市の自然を象徴する河川景観の保全に努め、水とふれあえる親水空間の整備や多自然型川づくりの推進により、市民生活に潤いを与えるレクリエーション空間の創出を図ります。特に恵良川は、院内地区特有の石橋群の保全に努めます。
ゾーン	市街地ゾーン (都市計画区域内)		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 用途地域内および今後市街地としての位置づけを図る区域を本ゾーンとして位置づけ、無秩序な市街地の拡大の抑制や災害対策の充実により、都市的環境が充実した安全・安心な居住地の形成を図ります。 ◆ 交通渋滞や沿道景観に留意しながら、官公庁施設や商業・業務・文化施設等、本市の主要な都市機能の集積により、市の中心部としての拠点性の強化を図ります。
	住宅地・集落ゾーン (都市計画区域内)		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画区域内のうち、市街地ゾーン以外に点在する住宅地・集落を本ゾーンとして位置づけ、無秩序な市街化の抑制を基本としつつ、既存ストックの有効活用や適切な土地利用を誘導することで、周辺の農地と調和した良好な住宅地・集落環境の維持・活性化を図ります。
	平野ゾーン (都市計画区域内)		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画区域内のうち、田畑が広がる平野部を本ゾーンとして位置づけ、優良な農地としての保全に努めるとともに、荒廃農地の再生を促進し、農地としての利用を積極的に図ります。
	里山・集落ゾーン (都市計画区域外)		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画区域外のうち、集落が点在する区域を本ゾーンとして位置づけ、優良な農地の保全・活用により生産性を維持していくとともに、集落環境の維持・活性化を図ります。 ◆ 山麓地や河川沿い等、災害リスクの高い区域の災害対策の充実を図ります。
	山岳・自然ゾーン (都市計画区域外)		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 都市計画区域外のうち、里山・集落ゾーン以外の山間部を本ゾーンとして位置づけ、良好な自然・森林環境の保全をはじめとして、宇佐平野と山並みからなるパノラマ景観や岳切溪谷等の景勝地の保全に努めるとともに、レクリエーション空間としての活用を図ります。

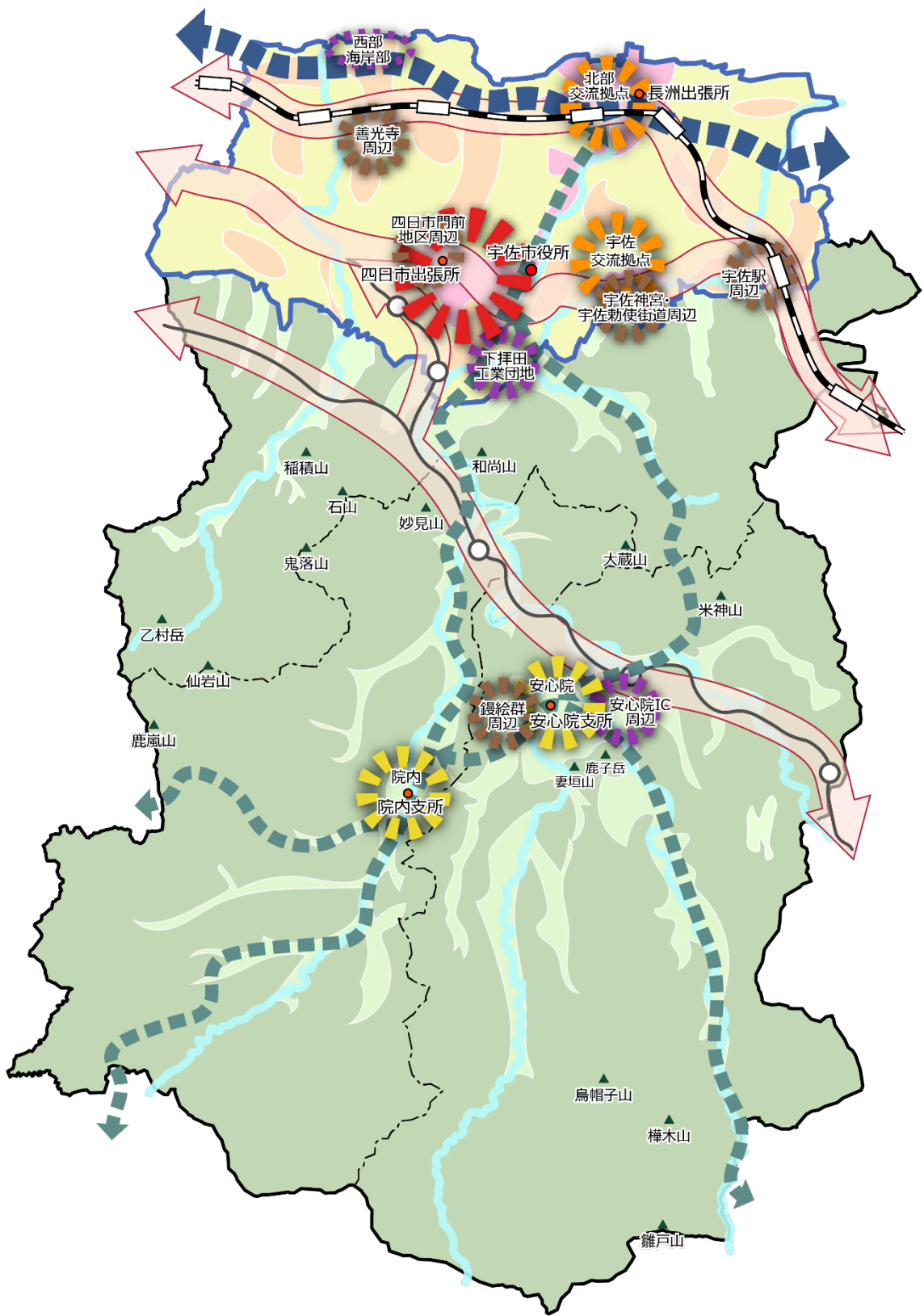


図 将来都市構造